

安来高新聞



発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854) 22-2840
FAX：(0854) 22-3612

期待の新生152名

4月8日に第70期の新生が入学した。新生は目を輝かせ、不安や希望に満ちた表情で入場し、呼名では元気よく返事をした。



緊張の面持ちで誓いの言葉を述べる原塚真さん

校長式辞で児玉校長は新生に二つのお願いをした。一つ目は「主体的に物事に取り組んで欲しい」二つ目は「学校行事や部活での学びを生かして欲しい。それが達成感や充実感に繋がっていく」と力強く語りかけた。新生は校長先生の話を熱心に聞き、これからの高校生活への期待を高めた。

入学式の後には対面式が行われ、吹奏楽部による華やかな演奏が会場を盛り上げた。式後に新聞部のインタビューに答えた小原未久さん(1年)は「高校生活では勉強と部活動を両立できるようにしたい。あと、友達もたくさん作りたい」と笑顔で話した。また、ある保護者の方は入学式を終えて「感激している。高校では部活や勉強を頑張って自分なりの進路を決めて欲しい」と話した。

新生は高校生活にたくさん不安があったり、勉強や部活の両立が難しかったりするが、まずは高校生活に慣れて高校の時しかできない経験をし、充実した高校生活を送って欲しい。



(愛・柚)

合格を勝ち取ったあの瞬間!!



喜びにわく受験生

3月18日午前10時、平成28年度入学生合格発表が行われた。小雨の中およそ40人ほどの生徒や保護者が発表を今か今かと待った。合格を勝ち取った東出雲中の女子は「入試が難しかったので不安な思いで見に来ました」とホッとした表情で語った。

佐久保発

雨

「雨」と聞いてよいイメージを浮かべる人はそう多くないだろう。雨の中を歩けば髪の毛や服がぬれてしまう。それを防ごうと雨具を使えば動きにくくなったり荷物が増えたりと行動が制限される。また、ふと空を見上げたとき視界いっぱい暗い雲が広がってれば心までも暗くなってしまいうことだろう。これらのことが雨のマイナスなイメージにつながっている。▼また、ことわざにも雨をマイナスにとらえたものが多い。例えば「雨が降ろうと槍が降ろうと」がある。このことわざは雨を困難というマイナスなものとしてとらえている。▼しかし、中にはプラスの意味でもとらえられているものもある。例えば「雨垂れ石を穿つ」だ。これはどんなに小さな努力でも根気よく続けていけばいつか成果が得られるという意味を持ち、雨が石を穿つ力を努力というプラスなものとしてとらえている。この言葉は私の「雨に対する良くないイメージ」を根本的に覆してくれた。雨垂れが石を穿っているという考えはとても新鮮だった。▼普段何気なく降っているように見える雨も、そう考えるとまるで雨自身がなにか意思を持ち地上に降り注いでいるようにさえ思われる。あなたも雨が降り始めた時には、雨の持つ意思を感じ取ってみてほしい。そうすればきっと、雨の持つ力が伝わってくるだろう。(柚)

多彩な経験

次への一歩 各々が奮闘

フェンシング女子



全国の厳しさ知る

士気を高めるフェンシング部

はリードし自分達のペースで展開できたが、中盤に逆転され終盤に6ポイント離された。強気で攻め切れれば勝機があった。初戦を落としたことが残念。2試合目の和歌山北は今回の優勝チーム。14点で敗退したが、チャンピオンチームと対戦でき、良い経験になった」と語った。キャプテン神林澄夏さん（3年）は、「初戦は、チームの雰囲気よく戦えていたが、私が足を引く張ってしまった」と惜敗した試合について振り返った。また、「今年の夏に行われるインターハイ、国体に向けてチームをまとめて、リードしていきたい」と話した。（真）

第40回全国高等学校フェンシング大会

3月25日～27日山口県岩国市

32～38三本松高校（香川）

14～42和歌山北高校

44～29慶応湘南藤沢高校

1勝2敗で予選突破を逃した。監督の永井宏尚先生は「初戦の三本松は合宿で毎年一緒に練習するチーム。序盤

囲碁

全国で打ち合う

3月19日から20日にかけて大阪商業大学で行われた第10回全国高等学校囲碁選抜大会に青戸琴美さん（3年）、大江珠未さん（2年）、漆原友紀さん（2年）が出場した。試合は2勝2敗で全国10位に輝いた。3勝した大江さんは「全国の人たちと打ついい機会になった。これからも頑張っていきたい」と決意を語った。（柚）

次の一手を決める青戸選手



バスケットボール部



山本エドワードさんに教わるバスケット部員

山本エドワード氏 熱心に指導

スサノオマジック所属の山本エドワードさんが本校のバスケット部を指導するために安高体育館に姿を現した。山本エ

ドワードさんは「安来高校のバスケット部は思っていたより悪くはない。ある程度の基礎は出来ている。DFとOFの仕方も教えるが、主に教えることは試合での場面で敵とどどのように駆け引きをし、どのように勝つかだ」と熱心に語った。山本エドワードさんと練習するバスケット部員達の姿からは、一所懸命技術を吸収して実践に移そうとする意欲が感じ取れた。バスケット部マネージャーの長谷川美空さん（2年）は「すごい選手に教えてもらう機会があって嬉しい。バスケット部にとってひとつのチャンスになると思う」と嬉しそうに語った。（業）

写真部

作品展

美しい世界・やすぎ

2月28日～3月13日、安来市立図書館で写真部の作品展30点が展示された。写真を見た人々は「弾むような初々しさがあり、人への優しさがあり：」「なんだかホッコリする気持ちになりました。頑張ってる生きよう」などとコメントした。



作品に見入る来場者

弦楽部



きれいな音色を会場に響かせる

素敵な会場・素敵な演奏
しまねシンフォネット
高校オーケストラ

3月12日雲南市のラメールで、県内6校の弦楽部が中心となって合同の定期演奏会が行われた。木下結衣部長（3年）は「立派な会場で気持ちよく演奏できた」とすがすがしい表情で語った。

吹奏楽部&弦楽部

ランチタイムコンサート

3月24日に中の海会館で弦楽部と吹奏楽部によるランチタイムコンサートが開催された。演奏会を見に来た生徒は「ご飯を食べながら目の前で演奏を聴ける機会はめったにないから楽しめた」と語った。弦楽部の

木下結衣部長（3年）は「吹奏楽部の演奏は少人数をカバーする音の豊かさがある。私たちも豊かな音を出せるように練習したい」と語った。吹奏楽部の江田菜穂子部長（3年）は「弦楽部の演奏にはまとまりがある。私たちもまとまりのある演奏をしたい」と語った。（業）

陸上部

着実な成長見せる

高校新人駅伝

3月12日 浜山陸上競技場

昨年より3つ順位を上げ、12校中6位に入る快走を見せた。野坂祐希キャプテン（2年）は「誰も怪我もなく万全の状態で臨め、自分のやるべき区間の仕事を果たすという自覚を持って取り組めた」と爽やかに振り返った。



演奏を聴きながらご飯を食べる生徒

67期卒業生の進路状況

就職			進学						進学 準備	合計
民間	公務員	合計	大学		短大		専門学校			
			国公立	私立	公立	私立	高専	他		
11	3	14	41	29	13	6	10	26	3	142

【参考】国公立大学合格者数の推移(現役生のみ 延べ人数)

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
合格延べ数	31	36	44	31	37	35	42
卒業者数	174	175	145	156	153	153	142

H27年度 安来高校合格実績(延べ数)

国公立大学(一部)

- 岡山大学 1名
- 広島大学 1名
- 島根大学 19名
- 島根県立大学 9名
- 鳥取大学 3名
- 山口大学 1名
- 熊本大学 1名 他4校

私立大学(一部)

- 関西学院大学 2名
- 同志社大学 1名
- 京都産業大学 1名
- 甲南大学 1名
- 神戸女子大学 3名
- 龍谷大学 2名
- 他

大躍進! 67期生進路状況

先生方に聞いた 大躍進の秘密

平成27年度は卒業生数に比べ合格延べ数の割合が多かった。その要因を先生方に聞いた。



児玉 諭 校長

児玉校長の分析
***失敗を生かす力と集団力の勝利**
 児玉校長は「この3年生のセンター試験結果は厳しかった。しかし、その悔しさと失敗をばねにしてより一層勉強したからその結果だ。それに加えてこの3年生は集団力も高かった。私がいつも言っている「集団力」の理想となった学年だった。自主的に学習する場面に一人一人が積極的に参加し、競い合うことでお互いを高めあえたと思う」と話した。(業)



小林 努先生 (H27年度進路部長)

小林前進路部長の分析
***ひたむきな姿勢**
 小林先生は「昨年度はC判定(50%以下)からの合格者が多かったのが特徴的であった。今回の結果のようになったのは粘り強さと努力があったからだ」と話した。「授業も大切に、ひたむきであった。また、とても積極的に自ら先生」と話した。



吉村 隆 先生 (67期生学年主任)

吉村学年主任の分析
***時間、機会の有効活用**
 「3年になり、県総体または体育祭などの行事後

のところに質問に行ったりしていた」「学年全体で気持ちを一つにして頑張ったのが今回の結果につながった」と語った。(愛)

に部活の時間だったところを受験に向けて勉強の時間に使うなど姿勢が変わった」「早く進路が決まった人も勉強をおろそかにせず、学校の放課後を利用して、真面目にやっていた」と話した。また、このような進路状況を踏まえて、「センター試験後に行われた2次試験に向けての個別指導も積極的に活用していたため、今回の結果に大きくつながった」と語った。(真)

編集後記
 充実した高校生活を送るためにうってつけの部活動がある。それは新聞部だ。コミュニケーション能力が向上するだけでなく、たくさんの方との関わりから多くのことが学べる。部員同士もとても仲が良く楽しいので是非入部してほしい。

久々の授業に張り切る大場先生



60年ぶりの授業
 ～同窓会での再会に歓喜～
 3月19日中の海会館で安来高校60周年記念同窓会が行われた。今回の同窓会は安来高校では初の試みである授業付きの同窓会であった。

約60年前の当時、安来高校で教鞭をとっておられた大場格先生の国語の授業を同窓会に来た約30人が受けた。この同窓会のためにアメリカから日本に帰って来た人もいたそうだ。授業が始まる前などは懐かしい先生、友人に会い、会話を花を咲かせていた。「奥の細道」の授業では、当時の授業を思いだし、懐かしみながら楽しく受けたようだった。大場先生は「授業をしたのは久しぶりであった。当時のことを思い出して楽しかった。みんな元気で会えて良かった」と話した。



先生の話を熱心に聞く70代生徒たち

授業を受けた女性は「とても懐かしかった。当時の授業では知らなかったことを新たに知ることができ良かった」と笑顔で話した。(愛)